

バングラデシュ・母子保健改善/保健システム強化プログラム

【現状・課題】

- ・感染症対策、母子保健分野等で一定の成果(乳児死亡率、5歳未満児死亡率、妊産婦死亡率等の改善)。
- ・熟練介助者による出産介助率の低さ、自宅分娩率の高さ、栄養失調の割合の高さ、貧困層のサービス利用率の低迷等は依然として課題。
- ・地域レベルから高次医療機関までの一貫した公的保健サービス提供の改善と信頼性向上、住民参加、保健家族福祉省の監督役割・能力強化、地方行政の計画策定・調整能力強化等の包括的な保健システム強化が必要。
- ・保健人材の絶対数の不足(特に看護師、助産師)、職種バランスの不均衡、質の標準化、都市と地方の不均衡、インセンティブシステムの欠如等の問題。
- ・保健家族福祉省の保健サービス局と家族計画局の重複、調整不足による非効率。

FY2010

2011

2012

2013

2014

2015

2016

バングラデシュ「保健・人口・栄養セクター開発プログラム(HPNSDP)」

ドナー支援を受けて、保健家族福祉省がプログラムを実施。

目標: 保健サービスへのアクセスおよび利用改善を通じ、公正で質の高いヘルスケアをすべての国民に確保する。

参加ドナー: AusAID, CIDA, DFID, EU, KfW, GTZ, JICA, SIDA, UNAIDS, UNCEF, UNFPA, USAID, WB, WHO

【支援方針・目標】

母子保健サービスの改善と保健システムの強化を通じて、バングラデシュにおける母子保健に関するMDGs(妊産婦・5歳未満児死亡率)の達成を目指す。

政策レベル

保健アドバイザー(個別専門家)(2009-2013)

- ・セクタープログラム全体の計画策定、モニタリング・評価への参画、保健家族福祉省計画局のプログラム運営能力強化、ドナー調整

保健アドバイザー(個別専門家)(2014-2016)

- ・セクタープログラム全体の計画策定、モニタリング・評価への参画・保健家族福祉省計画局の能力強化支援、ドナー調整、

実施機関レベル

母性保護サービス強化プロジェクト フェーズ1(2006-2010)・フェーズ2(2011-2016)

- ・妊産婦及び新生児の保健サービスの利用と質の向上に資するノルシンディモデルの構築(フェーズ1)、モデルの精緻化(フェーズ2)
- ・ノルシンディモデルのHPNSDPや上位政策・戦略への反映
- ・全国での普及・展開に必要な体制整備への技術支援

【成果】

- ・中央・県レベルでの母子保健行政強化・関係者間の調整促進
- ・公的医療施設の保健サービスの質の改善
- ・コミュニティベースの母子支援体制確立

母子保健改善事業(保健・人口・栄養セクター開発プログラム)(フェーズ1) (円借款)

- ・全国での母子保健改善(技術協力の成果の普及・展開)のために必要な資金協力

母子保健改善事業(保健・人口・栄養セクター開発プログラム)(フェーズ2) (円借款)

JOCV(看護師、助産師、村落開発) ・現場レベルでの母子保健改善